２０２４年度　ジェロントロジー研究助成　対象者（敬称略）

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ	金額（万円）
共同	荒木　賢二	一般社団法人ヘルスシステム研究所・顧問、宮崎大学名誉教授	介護現場における介護記録要約文書の生成を効率化し、介護行為に役立て、医療介護従事者間で介護行為の暗黙知を共有し活用することによって人材育成教育や介護従事者によって行われる作業等を効率化する。	50
共同	安東　彩乃	上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻博士後期課程大学院生	中高年男性向けの「男性更年期のセルフモニタリングアプリ」の作成と評価	44
単独	梅谷　進康	桃山学院大学教授	在宅高齢者への生活支援や介護予防などのインフォーマル支援について、大学生によるボランティアの現状と大学生がその担い手になることの促進策を大学による組織的なサポートも含めて量的調査にもとづき考察する。	50
共同	岡本　聡美	千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程大学院生	認知症高齢者の自律・自立を支援するための環境づくり看護実践ガイドを用いた一般病棟の環境づくりを一般病棟の看護師により実施する。その結果から、ガイド活用の効果と課題を明らかにする。	50
単独	狩谷　明美	社会福祉法人旭川荘　旭川荘総合研究所研究員	これまで、収集している高齢者のフレイル関連データを後ろ向きに観察し、疲労感レベルを、自律神経・体組成・睡眠時間・から検討し、複数要因数理モデルを用いて、カットオフ・ポイントを探索する。	50
単独	Kim Nahyun	神戸大学大学院博士課程後期課程大学院生	高齢者の孤独感は、人と関わり合う社会的相互作用によって、変動し得るのか。日常的な社会的相互作用の相手や量、質と瞬間的孤独感を縦断的に追跡できる経験サンプリング法より、孤独感の変動を解明する。	50
共同	杉本　浩章	日本福祉大学福祉経営学部教授	ソーシャルデザインに基づくアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の促進効果と終末期ケアの質の検証	50
単独	竹内　真純	東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加とヘルシーエイジング研究チーム非常勤研究員	マイクロアグレッションとは、日常生活の中で知らず知らずのうちに特定の集団成員を傷つける言動を指す。本研究では、日本の高齢者が日常の中で経験する、年齢に関わるマイクロアグレッションを明らかにする。	50
共同	西尾　美登里	西九州大学看護学部看護学科准教授	異性である妻や母を在宅で介護している男性を対象に、助けを求める力とレジリエンスを向上す基礎的調査を実施し（インタビュー＋トレーニング）、介護生活の継続への効果を検討する。	50
共同	畑中　綾子	尚美学園大学総合政策学部准教授	高齢者支援技術の導入による高齢者の内心の自由および自由な意思決定の侵害に対する ELSI（法的倫理的社会的課題）の研究	50
共同	深瀬　裕子	北里大学医療衛生学部准教授	地域在住高齢者の会話による音声コミュニケーション能力と聴覚ワーキングメモリおよび聴力の関連：コミュニケーション、聴覚ワーキングメモリ、聴力の盲検法評価による検証	50

形態	対象者※	所属	研究テーマ	金額（万円）
単独	福田　文雄	北九州総合病院副院長	健診の胸部 X 線画像による AI 骨粗鬆症スクリーニングの実証研究　健康診断で撮影した胸部 X 線画像を二次利用して骨粗鬆症スクリーニングを実施し、骨粗鬆症の早期発見にどの程度寄与できるかを明らかにすること	50
単独	堀口　康太	白百合女子大学発達心理学科准教授	サービス付き高齢者向け住宅への転居を通して、高齢者がどのように適応していくのかについて、転居動機という観点から検討すること。	28
共同	三浦　武	横浜市立大学医学部看護学科助教	高齢者の医療施設への定期的な通院と診察待ち時間がヤングケアラーとビジネスケアラーの社会生活に及ぼす影響と支援ニーズに関する実態調査	50
共同	横山　淳美	島根県立大学看護栄養学部看護学科講師	認知機能の低下予防と腸内細菌叢との関連	50
共同	米澤　大輔	新潟大学大学院医歯学総合研究科准教授	地域在住高齢者の健康管理を改善するため、自己管理情報を客観的に把握し、地域包括ケアシステムへ効果的に貢献する手法を検証する。行動変容の要因を分析し、へき地でも可能な健康管理システムの構築を目指す。	50